

組織的調査研究活動推進事業報告（要約） （石垣島におけるシャコガイ漁業）

調査研究活動チーム

友利昭之助・村越正慶^{*}・杉山昭博（八重山支場）

玉城正雄・諸見里聡^{**}（八重山支庁）

川崎一男・勝俣亜生（水産振興課）

糸満盛健・新城 博（漁政課）

1. 調査研究活動の目的及び方法

本県周辺は広大なサンゴ礁にかこまれ熱帯性の二枚貝であるシャコガイ資源に恵まれており、サンゴ礁の水産的有効利用と沿岸漁業の振興策の一つとして、シャコガイの大巾な生産増が期待されている。しかしながら生産量は昭和50年の578トンから昭和56年には92トンにまで大きく減少しており、今後シャコガイ漁業の振興を図るには、種々の問題があるものと考えられる。

石垣市は沖縄本島から南西方向約440km(24°20'N,124°09'E)に位置しており、八重山諸島の中心をなす市である。石垣島周辺海域はサンゴ礁がよく発達し、特に石垣島と西表島の間には石西礁湖を形成し、1漁協の管理下内にシャコガイの好漁場を有しており、シャコガイ漁業の盛んな地域である。しかし同地域のシャコガイ生産量も昭和50年の213トンから昭和56年には11トンと激減しており、本県におけるシャコガイ漁業の諸問題を集約的に内包するものと考えられる。

そこで同地域のシャコガイ漁業を振興する上での諸問題を明らかにし、その対応策を検討することによって、本県におけるシャコガイ資源の有効利用を促進し、沿岸漁業の振興をはかることを調査研究活動の目的とした。

調査研究活動の期間は昭和58～59年度の2年間であり、58年度はシャコガイ漁業の現状を明らかにするために、漁法、漁場、漁獲サイズ、漁家数、販路、加工等の状態について、沖縄農林水産統計年報の利用と聞き取り及び標本船調査を実施した。

2. 調査研究活動の結果及び問題点

調査研究活動の結果等の詳細については「昭和58年度組織的調査研究活動推進事業調査報告書」（沖水試資料No.79）で報告したので、ここでは結果及び摘出された問題点の概要を述べる。

①漁法は素もぐり及び簡易潜水器を用いての採集具による直接採取である。漁場は石西礁湖全域におよび、常に新しい漁場を開拓しているが限界に達しつつある。ヒメジャコの漁獲サイズは殻長5～6cmと小型化してきており、再生産可能サイズより小さくなりつつある。

* : 報文とりまとめ

** : 現在の所属、県漁業者センター

②主にシャコガイを中心にとっている漁家数は11であり減少傾向にある。販路はヒメジャコは生食用として飲食店に、ヒレジャコをはじめその他の種類も品不足から加工用よりも生食用が増加しつつある。ヒメジャコの価格は外套膜と貝柱の最上可食部で1kgあたり石垣島小売価格で7,000～8,000円、那覇小売価格で8,000～10,000円である。ヒレジャコは殻も取引されている。加工は塩からとして製造されている。原材料は地元産の不足により外国からの輸入品を使用している業者もある。

③漁業者がシャコガイ漁業のみでは生計が立てられなくなっている。漁獲量激減の主原因は、赤土の流出による漁場の消失及び荒廃とする漁業者もいたが、大半の漁業者は乱獲であると自らも認めている。漁業者は現時点でのシャコガイの漁業規制には大筋で同意している。

④採貝漁業者の他漁種への依存率が高くなっており、一本釣、刺網、追い込み、定置網等の他の漁業種類との競合や他資源の加速度的な食いつぶしが懸念される。

⑤ヒメジャコの種苗放流や栽培漁業について、漁業者は高い関心を持っているが、埋め込み法のように放流作業量が多いこと、収穫までの期間が長いこと（体長量1.5～2.0cm/年、殻長8.0cmになるまでに放流後4～5年かかる）、そして漁場管理の困難性（密漁）を問題としている。

⑥加工業者は観光土産として見通しが明るいので、原材料の入手のみを問題としている。しかしながら、観光土産として定着化をはかるためには味覚の工夫も必要であるとの指摘もあった。

⑦シャコガイを料理の材料として購入している飲食店ではあまりに高価になりすぎて、材料として使うのに無理が生じていると述べ、一般消費者も高級品になり食べられないとの指摘があった。

3. 総合考察と今後の課題

漁獲量の大巾減少と漁獲サイズの小型化にみられるシャコガイ資源の枯渇に近い現状は、石垣島のシャコガイ漁業が急速に根底から崩壊にむかっていると判断される。このことは同一礁湖内での他漁業への影響は必至であり、今後の沿岸漁業の振興が憂慮される。この点からシャコガイの資源回復手段を早急に講じる必要がある。

一つの水産資源の回復という大きな問題解決のためには抽出された問題点と関連する試験研究、行政、普及の各部門が自らの部門で、それぞれ検討すると共に部門を越えた討議によって連帯性のある一貫した方向での展開及び対処が不可欠である。

シャコガイ資源回復のための具体的な方策は、沖縄県が石垣島・川平湾の保護水面区域内で証明したヒメジャコの天然資源回復力を応用した資源管理型漁業と現在試験研究を進めている資源培養型漁業の併用策であり、その強力な推進が必要であると考えられる。